

国 事 借 事	業 入 機 関	名 名 人 関	ネパール王国 ウダイプールのセメント工場建設事業 ウダイプールのセメント会社 (UCIL) ネパール王国政府
交 換 借 款	公 文 契 約	締 結 調 印	1987年7月 1987年10月
貸 付 貸	承 諾 実 行	額 額	18,770百万円 18,749百万円
事業概要と OECF 分			
<p>本事業は、ネパールの首都カトマンズ東方約 140km のナガルマタ県ウダイプールのジャルジャレにセメント工場 (800t/日 [クリカベ-ス]) および関連施設 (石灰石採掘場、アクセス用道路・ロープウェイ) を建設し、急増するセメント需要に応え、同国におけるセメント自給率の向上を図るものである。</p> <p>OECF の借款対象は、本事業に係わる外貨分の全額である。</p>			
主要計画/実績比較		計画	実績
(1) 事業範囲			
セメント工場		[7° 北] 乾式サパ ^ン ジョン ^ン ピ ^ン ター付 [クリカ生産能力] 800 t/日	同左 同左
石灰石採掘場開発 採掘場整備		樹木伐採、積込地(平坦地)造成、ロープウェイ建設資機材運搬	同左
アクセス道路建設 ロープウェイ建設		延長 26 km × 幅 3.5m 延長 13 km、200t/h	延長 26 km × 幅 6 m 同左
コンサルタント雇用			
基本設計、入札補助、 施行管理、試運転		計 151M/M うち日本での研修 30M/M	211M/M 33M/M
完成後技術・経営指導		計 260M/M うち日本での研修 60M/M	274M/M 60M/M
(2) 工期			
工事開始～工事完了		1987年7月～1993年12月	1987年7月～1994年11月
(3) 事業費			
・外貨分 (基金分)		18,770 百万円	18,719 百万円
・内貨分		301 百万ルピー -	321 百万ルピー -
合計		21,070 百万円	19,961 百万円
為替レート		1 ルピー = 7.63円	1 ルピー = 3.87円

分析と評価

(1)事業範囲

事業範囲については、ほぼ当初計画どおり実施された。資機材運搬用のアクセス道路は予定より幅を広げられたが、これは、住民の一般道路としての利用を目的としたためであり、生活環境改善をもたらしたことを考慮すると妥当な変更であったと考える。また、コンサルタント雇用についても若干の増加があったが、これは工期遅延の回復を目的としたものであり、問題はないものと考えられる。

(2)工期

資機材調達で 14 ヶ月、セメント工場建設で 11 ヶ月、ロープウェイ建設で 30 ヶ月、また、コンサルタント雇用に関して 11 ヶ月の遅延となった。それらの遅延に対しては、建設工事にかかる人員・建機の増加により対処され、最終的な遅延は最小限に抑えられた。

(3)事業費

外貨分については若干のコストアンダーラン、内貨分については若干のコストオーバーランが生じたものの、全体としてはほぼ計画通り実施された。

(4)実施体制

実施機関はウダイプールセメント会社 (UCIL) であり、F/S は本邦コンサルタント会社が行い、本事業のコンサルティング・サービスも同社との随意契約にて行われた。また、工場本体については、資機材の調達から建設に至るまでのターンキー方式で行われた。

(5)運営・維持管理状況

UCIL は国営企業であることから、工業省、大蔵省、および鉱山局の代表が取締役のメンバーに加わっている。実際に工場の運営・維持管理を行っているのは、操業開始時にコンサルタント会社より指導を受けた職員が中心であるが、これらの職員で他企業に転職する者が少なくないこと、および工員の定着率が低いことが指摘されている。

セメント平均生産量は、不安定な電力供給、スペアパーツの調達難等の要因により、生産能力の約 5 割程度に止まっている。工場の保守点検は毎日定期的に行われ、また、全従業員を対象にした、生産性の向上・低コスト化・高品質な製品の産出を目標に掲げ改善を図る独自のシステムが採用されている。

事業効果

- ・セメント需要増大への対応 (1995 年の生産量 128,857 t)
- ・セメント自給率向上による外貨節約効果
- ・雇用創出、地域開発効果

備考

評価報告日： 1996 年 4 月